特集❷

親子で生きものとふれあうお米づくり

プロジェクト
地球っ子ひろば　代表
射手　建雄（新居浜市）

「地球っ子ひろば」の田畑と森

◆自己紹介と活動の背景

わたしは6年前の定年退職を機に、横浜から生まれ育った新居浜の地で晴耕雨読の日々を過ごそうとの思いを抱いて戻ってきましたが、思いのほか、子どもたちが田畑や森で生きもの（小動物や植物）とふれあっている姿が見られなく、また、トンボやメダカやドジョウなどの姿も薄くなっていることに気がつきました。この原因の一つとされている、自然を伝え育むことの一役を担っていた農林業者が減少してきたことと、学びの場であった田畑や森の放棄化が進んできていました。平成22年度の耕作放棄地率においては全国平均の10・6％に対し、愛媛県下は22・0％、新居浜では25・1％と高値になっています。そこで、未来を担う子どもたちとその親に生きものたちとの命のつながりと田畑や森の保全の必要性への気づきとなるはずみを促すことを目的に、愛媛県環境マイスターとなりました。そして、新居浜市大生院喜来にある耕作放棄地の再生を行い、その田畑「地球っ子ひろば」で地域の親子が一緒になって出会う生きものたちとふれあいながら、お米やそばなどの種まきから採りいれ・調理までの一貫したプロセスを体験してもらう活動を始めました。

◆子どもたちに伝えたいこと

2014年度にわたしたちが力を入れて取り組んだ事業は、親子で生きものと五感を使ってふれあうお米づくりから食べるまでの体験の機会と場の提供です。5月「自然体験ゲーム＆生きもの探検」、6月「代掻き＆生きもの探検」「田植え＆生きもの探検」、7月「田んぼの生きもの探検＆草取り」、9月「稲刈り前の生きもの探検」、10月「稲刈り＆稲の実調べ」、11月「もちつき＆縄づくり」と計7回継続して実施しました。

どろんこになっての田植え作業

環境課題は知っていることが重要ではなく、活動・実践し、継続することが大事です。わたしたちは、聞いたことは忘れますが、見たことは思い出します。体験したことは理解することができます。そして、気づいた（感動した）ことは身につけることができます。子どもたちと共に、楽しく、苦労しながら、気づき、分かち合うことがわたしの生きがいのひとつともなっています。

子どもたちには、生きものたちと出会い、五感を使って直接楽しくふれあうことで、自分が生きもの（いのち）や社会とつながっているんだということに気づいてもらい、自然に親しみ、自然を知り、自然を大切にする心を育んでいってほしいと思っています。

生きものたちの命のつながりシートが完成

◆子どもたちの反応

子どもたちは本当に正直です。つまらないと思ったらすぐにそっぽを向きますが、いったん興味がわくと、その好奇心はとどまるところを知りません。そうした状況の中で怖かったことや悲しい命のやりとりの場に遭遇した体験などは、子どもたちの記憶にいつまでも強く残ることでしょう。

◆親たちの反応

「地球っ子ひろば」での体験活動は、親子での参加を原則としています。子どもと一緒に参加してくれるお父さん、お母さんたちは、20代、30代が多く、田んぼでの農作業や虫をつかまえて遊んだりといった経験をしていない方が多いようです。

この活動の主役はあくまで子どもたちと生きものたちなのですが、親たちも初めて体験することばかりで、親にとっても良い刺激になっているようです。子どもたちは、疑問に思ったことはすぐ親に聞きますから、即座に親もそれに答えたいけど、でも、生きものの名前や生態について知っているわけではないので、子どもに説明できるようにと陰で必死に勉強するようになるんですね。その結果、期待していた「親子で体験し、共に学び、成長できる場」になっているのではないでしょうか。

五感を使って自然体験ゲーム（フィールドパターン）

◆課題と効果

活動をする中で気づいたこととして、子どもたちが農作業活動に一生懸命になれる時間はせいぜい15分が限度です。やはり、子どもたちの関心は生きものの捕獲や観察でした。そこで、農作業時にも出会う生きものたちへの関心をも持たせるため、各イベント毎の体験活動プログラムの前半に、どんぐりを使ったアイスブレイクや五感を使った自然体験ゲームを取り入れ、子どもたちの観察力をアップさせた状態にして農作業に入ることができるプログラムへの工夫をしています。

また、参加する世代（親子）の多くが農作業に必要な道具を持っていないため、気軽に身ひとつで参加できるよう、生きものの捕獲・観察用具、長靴、鍬・鎌など、あらかじめこちらで道具を準備しなければならない必要にも迫られました。

この体験活動の効果としては、自然体験ゲームと組み合せることで楽しい農作業となり、自分と生きものたちの命のやりとりと自然のしくみへの気づきとなるはずみを促すことができたことだと思います。また、若い世代がお米づくりを体験することで、今後の生活においても自然に配慮した行動がとれるようになるのではと期待しているところです。

◆今後の目標

親子で生きものとふれあえる田畑での農業体験に森での林業体験を組み合せた、里地里山の再生活動への拡大と、いつまでも、子どもたちの記憶に「気になって」残るような体験の機会と場づくりを目指したいと考えています。

さあ、みんな!!生きものたちが待ってるよ!!

神社での餅つきに全員集合